





# そもそも、SDGsってなに？



サステナブル ディベロップメント ゴールズ  
 SDGsはSustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略で、世界のすべての人が幸せになるためにみんなで取り組む17の目標のことです。  
 熊本市は昨年、国から「SDGs未来都市」に選定されました。国際社会の一員としてグローバルな視点を持ち、さまざまな施策においてSDGsの理念を踏まえた取り組みを行っていきます。

## だれでもできるSDGsアクション・ガイド

 <p><b>レベル1</b> ソファに寝たままできること</p> <p><b>電気を節約しよう</b> 使っていない家電の電源はこまめに切ろう。必要な照明以外は消しておこう。 <b>紙も節約しよう</b> 印刷はできるだけせずデジタル付箋を使い、請求書の支払いは銀行窓口でなくオンラインで。</p>	 <p><b>レベル2</b> 家にいてもできること</p> <p><b>食べ切れない時は早めに冷凍</b> 生鮮品や残り物など。食べ物もお金も無駄にしないで済みます。 <b>リサイクルしよう</b> 紙やプラスチック、ガラス、アルミをリサイクルすれば、埋立地を増やす必要がなくなります。</p>	 <p><b>レベル3</b> 家の外でできること</p> <p><b>マイバッグを持参</b> レジ袋は断って、いつもマイバッグを持ち歩くようにしましょう。 <b>買い物はなるべく地元で</b> 地域の企業を支援すれば雇用が守られます。</p>	 <p><b>レベル4</b> 職場でできること</p> <p><b>通勤手段は…</b> 自転車、徒歩または公共交通機関を使いましょう。 <b>職場で差別があったら、声を上げよう</b> 性別や人種、性的指向、社会的背景、身体的能力に関係なく、人はみんな平等です。</p>
--	--	---	---

国連広報センター アクション・ガイドより一部抜粋

## 始めよう!身近なSDGsへの取り組み!

<p><b>8</b> 働きがいも経済成長も</p> <p><b>経済</b> <b>スマート農業</b></p> <p><b>第1次産業にイノベーションを!</b></p> <p>農水産業は、私たちの食生活を支え、また、加工や流通、観光などのさまざまな産業と結び付き、地域の経済を支える重要な産業です。</p> <p>一方で、農漁業者の減少・高齢化が進み、労働力不足への対策や若手への技術継承が求められています。南区護藤町のナス農家 田代敦夫さんは、天候や日照センサー、土中の水分センサーなどの情報をAIで分析し、灌水と施肥を自動的に行うシステムを昨年8月に導入し、「スマート農業」を実践しています。省力化だけでなく、人の勘に頼っていたことが数値化され、データとしても記録できるようになりました。</p>  <p>おいしいナスで健康にも貢献!</p> <p>南区護藤町 田代 敦夫さん</p>	<p><b>6</b> 安全な水とトイレを世界中に</p> <p><b>環境</b> <b>水保全</b></p> <p><b>水田の増加が地下水保全につながる!</b></p> <p>熊本の貴重な地下水を守るさまざまな活動をされている方を「くまもと水守」として登録していますが、上益城郡益城町在住の永田幸一さんもその一人です。会社員時代から20年以上にわたり「癒やしを求め週5回は訪れる」という大の江津湖ファンで、退職後に取得した観光文化検定を生かし、【水前寺・江津湖観光ガイド水守】として江津湖での清掃活動やフットパスを開催しています。</p> <p>「水守になったころ、江津湖の湧水量が減ったことが原因で自浄作用が落ち、水質が悪化していることに気がきました。なんとかせんといかん!と思い、以来ごみ拾いが日課です」。</p> <p>減反などにより白川中流域の水田が減少したことも湧水量が減った一因と知ると、積極的にお米を食べるようになったそうで「毎日お米を食べることが、自分のSDGsです」。</p>  <p>お米を食べて人も江津湖も元気に!</p> <p>水前寺・江津湖観光ガイド水守 ながた こういち 永田 幸一さん</p>	<p><b>11</b> 住み続けられるまちづくりを</p> <p><b>社会</b> <b>防災井戸</b></p> <p><b>熊本地震の教訓を次世代に</b></p> <p>肥後銀行は、熊本地震から1年後の2017年に、県内10か所に防災井戸を設置しました。全国の民間企業で防災井戸を設置したのは肥後銀行が初めて。長期にわたる断水で生活用水の確保が課題となった熊本地震の教訓を踏まえ、災害時の給水拠点として地域住民に井戸水を提供することが目的です。</p> <p>熊本市をはじめ県内5自治体と「防災井戸に関する協定」も締結しており、熊本地震を風化させない取り組みを行っています。授業の一環で見学に訪れる学校もあり、災害時だけでなく、熊本地震の教訓を語り継ぐ施設になっています。</p>  <p>うるおいある未来のために。</p> <p>肥後銀行 総務部 松野 有香里さん</p>
--	--	---